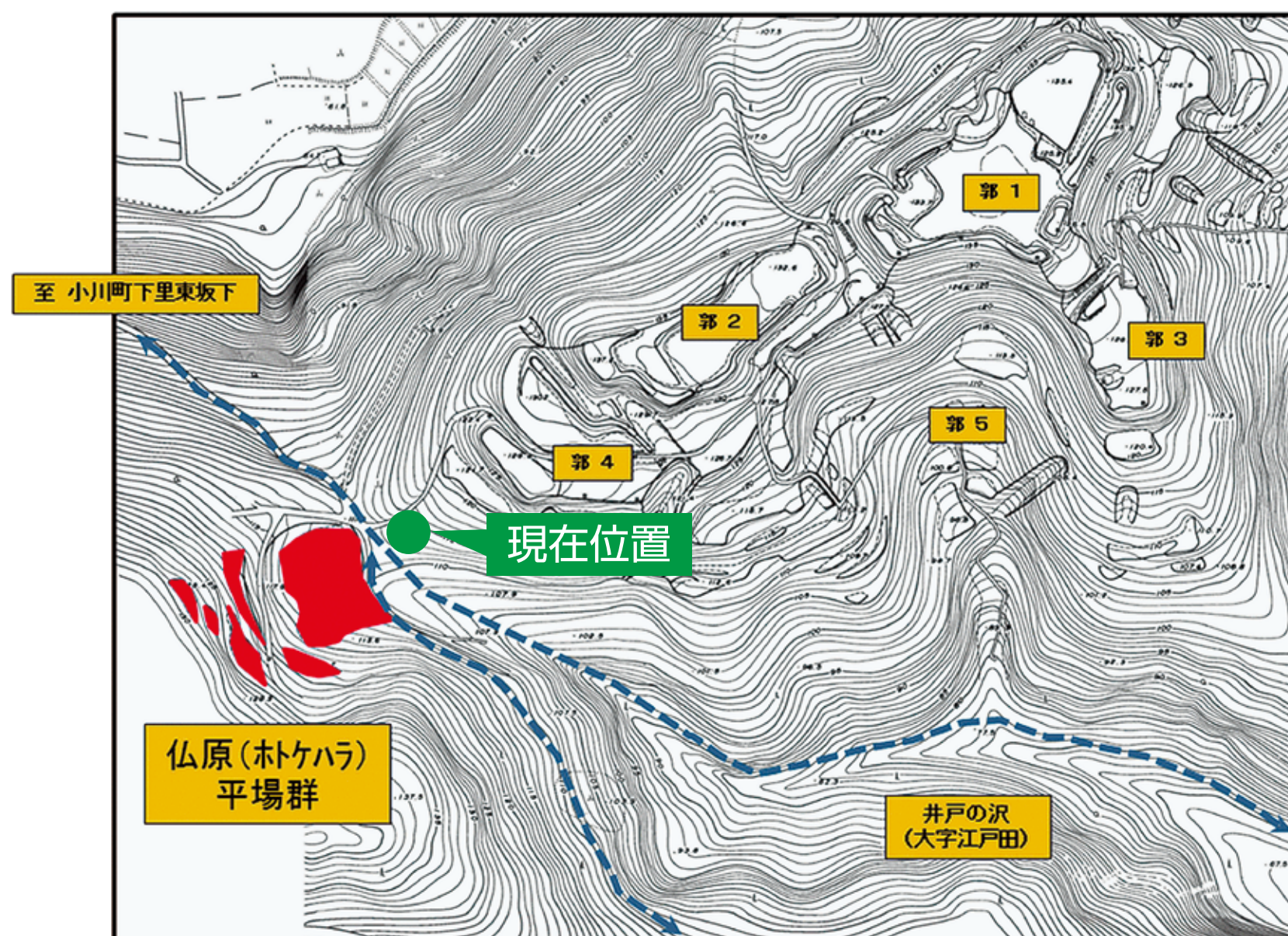
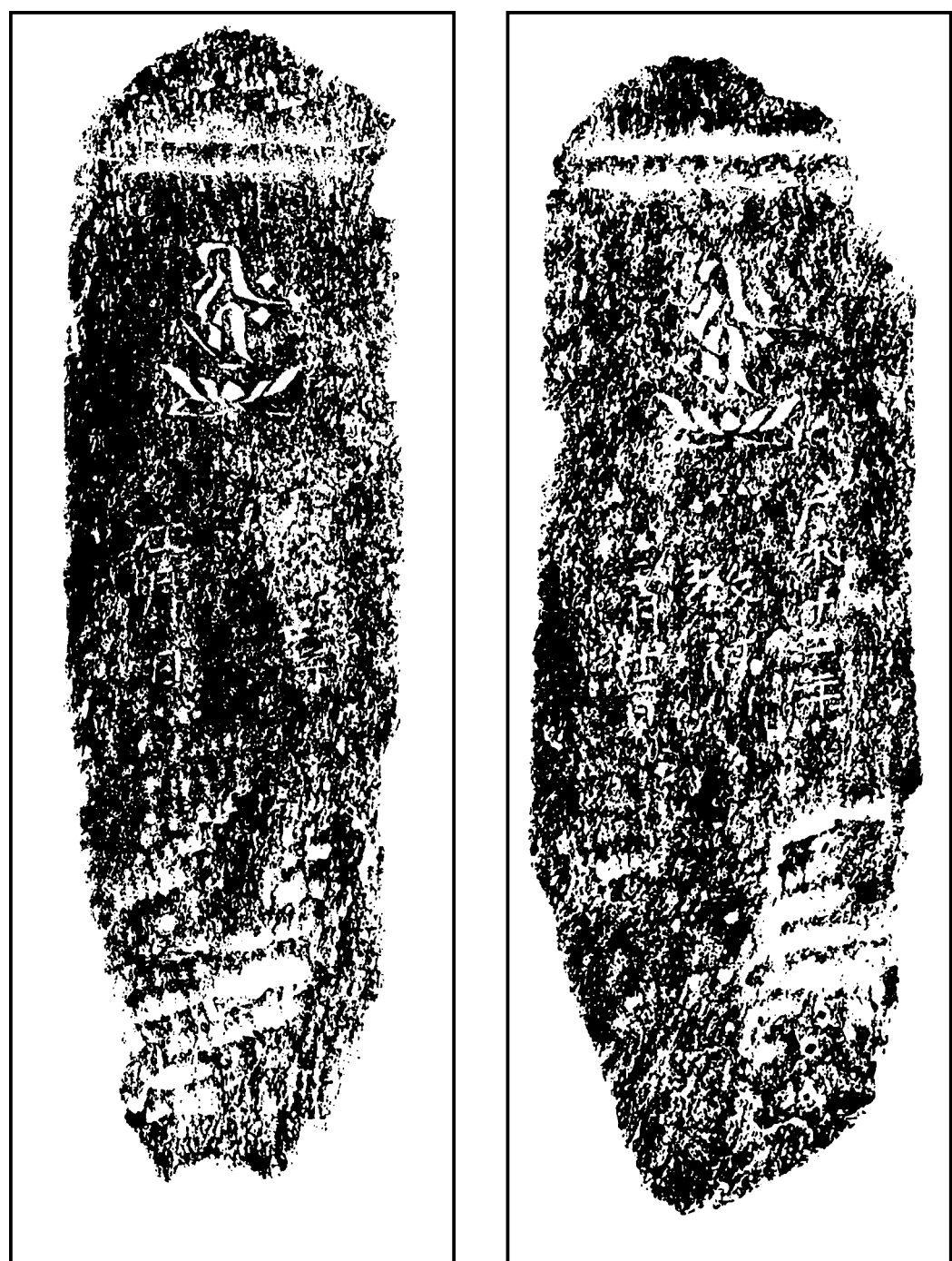


ホトケハラ（仏原）平場群

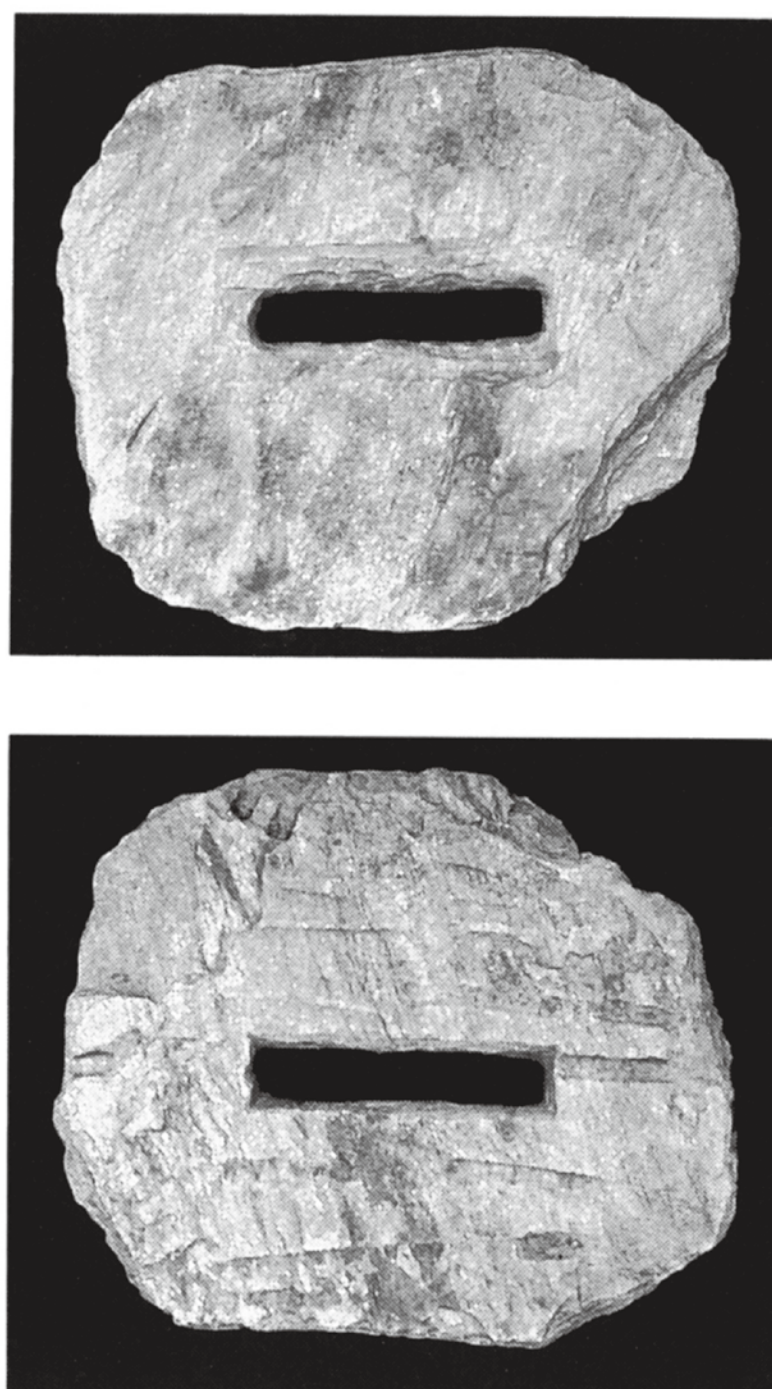
このあたりは、地元の口伝でホトケハラ（仏原）と呼ばれています。付近からは暦応元年（1338）、応永十二年（1405）、応永十四年（1407）の年号を含む9基分の板碑片、25基分の板碑の台石、台石片が出土しており、かつては多くの板碑（石製の塔婆）が立つ場であったようです。そのようなことから、この辺りは仏原と呼ばれるようになったのかもしれません。



▲ ホトケハラ（仏原）平場群位置図（赤塗部分）



出土した板碑 ※



出土した板碑台石 ※

付近は小川町との境界部分で、小川町分には対岸の小倉城跡郭4と対峙するように小倉から下里へ抜ける道を挟んで平場が展開します。平場群の性格は、板碑の立つ信仰の場に関連するものであったのか、井戸の沢方面や小倉地区の南側から下里へ抜ける道に対応する城郭遺構の一部であったのかは、発掘調査も行われておらず不明です。

※ 『小川町史』資料編3 古代・中世2 より転載

（ときがわ町教育委員会）

キリ
ー
ク
(蓮座)

応永十四年

正月日

キリ
ー
ク
(蓮座)

応永十二年

教

二月十二日